

第2学年国語科複式学習指導案

日時 平成21年7月10日(金)5校時
対象 第2学年 男子0名 女子2名 計2名
指導者 鈴木 里子

- 1 単元名 だいじなところに気をつけて読もう
「サンゴの海の生きものたち」

【説明的文章】

2 単元について

(1) 児童について

児童は、読み物に興味を持ち、楽しく読んでいる。文章を読むときは、「はじめ」「中」「終わり」の順序を大まかに理解し、大体的内容をとらえることができる。また、順序を表す言葉にサイドラインを引き、着目できる。しかし、自分一人の力では内容の読み取りや主述の関係をとらえることは、まだ十分ではない。

(2) 教材について

教材文は、サンゴの海に住む生き物について説明しており、2年生の児童にとって、興味のある内容である。「共生」という内容的には、やや難解な要素を含んでいるが、「たがいに、やくに立つようにかかわり合っている」という文を中心に、そのかかわり方が「はじめ」「中」「終わり」の文章構成に従って、説明されている。

(3) 指導について

本教材には、文章全体への問いかけとまとめが書かれているので、そのことをはっきり意識させたい。段落ごとの内容を主語・述語に気を付けながら叙述に即して丁寧に読み取らせ、読み取ったことを表現させることで確かなものとしたい。後半では、図書館などの本を読んで、わかったことを生き物カードにまとめさせ、読書への興味を広げたい。

3 単元の目標及び評価規準

(1) 単元の目標

- ・海の生き物たちがどのようにかかわり合っているのかを読み取り、共生の不思議さに興味を持つ。
- ・いろいろな生き物について調べ、カードを作って交流する。

(2) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読むこと	書くこと	言語についての知識・理解・技能
海の生き物のかかわり合いや説明文の文章展開に興味をもって読もうとする。	海の生き物たちが互いに役だっけらしていることを、事柄の順序を考えながら読んでいる。	図鑑などを読んで、「生き物カード」を書くことができる。	文の中の主語と述語の関係に注意している。指示語、文末表現に気を付けてよんでいる。

4 学習計画(11時間扱い)

評価規準	学習活動	時	段階
・教材文を読んで、感想を書き、学習の見通しをとらえている。進んで、生き物について調べようとしている。【関】(記述)	・全文を通読し、感想を持つ。 ・サンゴの海の様子を知り、興味を持つ。	①	出会う
・新出漢字をよむことができる【言語】(発言)	・学習計画を立てる。新出漢字の練習をする。	②	見通す
・登場する生き物の特徴やかかわり合いなどについて、叙述に即して読み取っている。【読む】(発言・記述)	・段落①②を読み、問いの文をとらえる。 ・段落③④を読み、イソギンチャクとクマノミがどんな生き物か読み取る。 ・段落⑤⑥を読み、イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを読み取る。 ・段落⑦⑧⑨を読み、ホンソメワケベラの体の様子と大きな魚とのかかわり合いを読み取る。	③ ④ ⑤ ⑥	追究する
・「初め・中・終わり」の大きなまとまりを理解している。【言語】(発言)	・生きもののかかわり合いについてまとめ文章の構成を理解する。	⑦	まとめる
・海の生き物についての本を、進んで読んでいる。【関】(観察) ・読み取ったことを文と絵にまとめ、カードを作ることができる。【書】(記述)	・海の生き物の本をさがして読む。 ・読み取ったことを文と絵にまとめ、海の生き物カードを作る。 ・学習内容の整理・確認をする。	⑧ ⑨～ ⑩ ⑪	深める

第3学年国語科複式学習指導案

日時 平成21年7月10日(金)5校時
対象 第3学年 男子1名 女子1名 計2名
指導者 鈴木 里子

- 1 単元名 大事なことをたしかめよう
「すがたをかえる大豆」

【説明的文章】

2 単元について

(1) 児童について

児童は、「問い」の段落に対する答えの段落は見つけられるようになってきている。文をつなぐ言葉を見つけてサイドラインを引いたり、主語・述語に気をつけたりしながら内容を読み取ることができる。しかし、自分一人の力では、段落毎の要点を見つける力や、様々な文章を読み取る力は、十分身につけていない。

(2) 教材について

本教材は、大豆について書かれたもので、児童にも身近である。解説型の説明文で、初めに説明するものを提示してから、そのことについて説明を加えていくという構成である。段落構成やキーセンテンス、キーワードなども明確である。説明文の文章構成を理解するのに適した教材である。この教材文を参考にして、「食べ物はかせになろう」というテーマで、自ら調べたいものを選んで、それに関する情報を集めて、説明文を書くという活動につなげていく。

(3) 指導について

中心となる語や文をとらえて段落の要点をつかませ、大豆をおいしく食べる工夫を正しく読み取らせたい。一人学びでは、課題解決に結びつく語や文、接続語・文末表現・繰り返し語句などの表現の工夫に着目させて内容を正確に読み取らせたい。さらに、食べ物について調べて文章にまとめていく活動につなげることで、読む目的を明確にするとともに学習活動への意欲を高めるようにしたい。

3 単元の目標及び評価規準

(1) 単元の目標

- ・身近な食べ物についての知識を得るとともに興味を広げる。
- ・中心となる語や文、段落相互の関係に注意して文章を読む。
- ・本での調べ方を知り、身近な食べ物について調べ、分かりやすくまとめて友達と交流する。

(2) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読むこと	書くこと	言語についての知識・理解・技能
・食べ物について書かれた本に興味を持って読もうとする。 ・伝えたいことが明確になるように段落相互の関係に注意して書こうとする。	・中心になる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、大豆を食べる工夫を正しく読み取っている。	・身近な食べ物について、情報を収集したりしながら、段落に分けて文章にまとめている。	・段落の役割について理解している。

4 学習計画(17時間扱い)

段階	時	学習活動	評価規準
出会う	①	・全文を読み、大豆を使った食品を確かめる。感想を持つ。	・大豆をおいしく食べる工夫について関心を持って読んでいる。【関】(感想)
	②	・学習計画を立てる。 ・言葉の意味を確かめ、新出漢字の練習をする。	・段落構成を読み取り、「初め・中・終わり」のまとまりを理解している【読む】(発言)
見通す	③	・「初め」の部分から、これから何について説明するかとらえる。	・「初め」の部分が、大切な役割を果たしていることを理解できる。【読】(記述)
	④	・大豆をおいしく食べる工夫について(段落③④)	・大豆の食品とおいしく食べる工夫を正しく読み取っている。【読】(記述・発言) ・「中」の部分との関連を考えながら、多くの食べ方が考えられてきた理由を理解している。【読】(記述・発言)
	⑤	・大豆をおいしく食べる工夫について(段落⑤⑥)	
	⑥	・大豆をおいしく食べる工夫について(段落⑦)	
	⑦	・大豆がいろいろなすがたで食べられてきた理由を読み取る。(段落⑧⑨)	
追究する	⑧	・段落の小見出しと各段落の要点を振り返り、文章の構成を確認する。	・段落のまとまりと全体の構成をつかむことができる。【読】(記述)
	⑨		
	⑩	・「食べ物はかせになろう」を読み、学習の計画を立てる。	・調べたい食べ物と事柄を決め、学習計画を立てようとしている。【関】(発言・記述) ・調べることに必要な本を探して読んでいる。【関】(観察)
	⑪	・調べ、体験し、分かったことを情報カードにまとめる。	
深める	⑫	・発表会を行い、学習のまとめを行う。	・調べたことを段落ごとにまとめ、聞き手に分かりやすく発表することができる。【書】(記述)
	⑬		
	⑭	・学習内容の整理・確認をする。	・調べたことを段落ごとにまとめ、聞き手に分かりやすく発表することができる。【書】(記述)

5 本時の学習指導（2年）

- (1) 目標 ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを読み取ることができる。【読む】
 (2) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点	※評価 ○支援	形態
導入 3分	1 学習課題をつかむ ホンソメワケベラと大きな魚はどんなかかわり合いをしているのでしょうか。	・クマノミとイソギンチャクのかかわり合いを想起させ、読み取りの意欲を持たせる。	○課題は、あらかじめ、ノートに記入しておく	
展 開 35分	2 学習の見通しをもつ。 ・ホンソメワケベラの体の特徴 ・大きな魚にとっていいこと ・ホンソメワケベラにとっていいこと	・いっしょにいとどんないいことがあるかという視点を持たせる。	○ホンソメワケベラと大きな魚を挿絵で確認させる。	
	3 本時の段落(⑦⑧⑨)を音読し、かかわり合いを見つける。	・段落読みを交代でさせる。	○見つけられないときは、サイドラインを引かせてから、視写させる。	
	4 課題について読み取る。 (一人学び) ・ホンソメワケベラの体の特徴 ・ホンソメワケベラが大きな魚に食べられないわけ ・そうじ魚とよばれるわけ。 5 ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いについて話し合いまとめる。 ・ノートの吹き出しに読み取ったことを書く。 ホンソメワケベラと大きな魚は、たがいにやくに立つようにかかわり合っています。	・ノートガイドに従って書かせる ・わけが書かれている文を見つけさせ視写させる。 ・出し合いをさせ、紙板書を貼らせる。 ・虫が寄生したままだと大変なことになることを説明する。 ・互いにどんな役に立っているかをまとめさせる。	※教材文から大事な言葉や文を見つけている。 ※自分の考えが分かるように書いている	
終末 7分	6 学習を振り返り、感想を交流する。	・ペープサートによって読みとった内容を表させる。	※成就感を持つことができたか。	

(3) 評価

評価規準	具体の評価規準	
	A	B
ホンソメワケベラと大きな魚とのかかわり合いを読み取り、読み取ったことを表現することができる。	ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを読み取り、読み取ったことを進んで話したり、表現したりことができる。	ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを読み取り、ノートの吹き出しに読み取ったことを書くことができる。

(4) 努力を要する児童への手だて

- ①前時の読み取りを想起させ同じような手順を進めて行くことを理解させる。
 ②本文から言葉や文を見つける作業を一緒に行い、サイドラインを引かせてからノートに書き出させる。

(5) 板書計画

5 本時の学習指導（3年）

- (1) 目標 ・大豆をおいしく食べる工夫について読み取ることができる。【読む】
 (2) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点	※評価 ○支援	形態
導入 3分	1 学習課題を把握する。 大豆を使った食品について、おいしく食べるくふうを読み取ろう。	・前時の読み取りを想起させ、大豆がどのようにすがたを変えるのか興味を持たせる。	○実物を提示し、学習意欲を持たせる。	
展 開 35分	2 学習の見通しをもつ ①本時の段落(⑤⑥)を音読し、工夫を見つける。 ②読みの視点をつかむ。 ・「ちがう食品にする」とはどんな工夫か。	・段落読みを交代でさせる。 ・書き出しの言葉「また」「さらに」に着目させ、「そのままの形」ではないことを確認させる。	○指示語にあらかじめマーカーで着色させておき、着目させる。	
	3 課題について読み取る。 (一人学び) ①大切なえいようだけを取り出してちがう食品にする工夫(とうふ) ②目に見えない小さな生物の力をかりてちがう食品にする工夫(なっとう・みそ・しょうゆ)	・ノートガイドに従って、おいしく食べる工夫とその食品を書かせる。 ・また、作り方についてノートガイドに沿って読み取らせる。 ・紙板書などを使い、互いに出し合いをさせる。	※教材文から大事な言葉や文を見つけている。 ○学習ガイドの進行で進めさせる。	
	4 読み取ったことについて話し合い、まとめる。 「ちがう食品にするくふう」 ・大豆にふくまれる大切なえいようを取り出す。(とうふ) ・目に見えない小さな生物の力をかりる。(なっとう・みそ・しょうゆ)	・時間があつたら、なっとう・とうふのでき方を説明させ確かめさせる。	※ちがう食品にする工夫読み取ることができる。	
終末 7分	5 学習の振り返りをする。 ○分かったこと・感想を発表する。 6 次時の学習の確認をする。	・2年生と感想を交流させる。	※成就感を持つことができたか。	

(3) 評価

評価規準	具体の評価規準	
	A	B
大豆で作られた食品について、おいしく食べる工夫と食品をノートに書き出し、内容を読み取っている。	大豆で作られた食品について、おいしく食べる工夫と食品をノートに書き出し、作り方などの内容を読み取っている。	大豆で作られた食品について、おいしく食べる工夫と食品をノートに書き出している。

(4) 努力を要する児童への手だて

- ①前時の読み取りを想起させ、同じような手順を進めて行くことを理解させる。
 ②本文から、言葉や文を見つける作業を一緒に行い、サイドラインを引かせてからノートに書き出させる。

(5) 板書計画